

殻形態から識別されたノチールシロウリガイの2形態型 Two forms of *Calyptogena (Ectenagena) nautilei* recognized in shell morphologies

諸隈 暁俊^{1*}; 中島 礼²; 藤倉 克則³; 安間 了⁴; 間嶋 隆一¹

MOROKUMA, Akitoshi^{1*}; NAKASHIMA, Rei²; FUJIKURA, Katsunori³; ANMA, Ryo⁴; MAJIMA, Ryuichi¹

¹ 横浜国立大学, ² 産業技術総合研究所, ³ 海洋研究開発機構, ⁴ 筑波大学

¹Yokohama National University, ²Geological Survey of Japan, ³JAMSTEC, ⁴University of Tsukuba

ノチールシロウリガイ *Calyptogena (Ectenagena) nautilei* Okutani and Métiévier, 1986 は、天竜海底谷の6個体を基に記載され、その後、熊野沖大陸斜面、第一南室戸海丘、銭洲海嶺及び潮岬海底谷から発見されている (Fujikura et al., 2000; Okutani et al., 2002; Kojima et al., 2004; Anma et al., 2010)。Okutani et al. (2002) は、天竜海底谷、熊野沖大陸斜面及び第一南室戸海丘の個体を観察した結果、本種の殻の外形に多様性があることを示した。本研究では、模式標本及び Okutani et al. (2002) で観察された個体を含む複数産地の個体を観察した。その結果、殻形態と貝殻内表面の特徴により、2つの形態型に区別することが出来たので報告する。

観察した標本は、天竜海底谷の完模式標本 MNHN 26983 (Nautile Dive KD-3)、副模式標本 MNHN 26984 (Nautile Dive KD-5)、副模式標本 MNHN 26985 (Nautile Dive KD-3) の3個体、熊野沖大陸斜面の4個体 (Shinkai 6500 Dive 615)、潮岬海底谷の5個体 (Shinkai 6500 Dive 889, 890, 891)、第一南室戸海丘の8個体 (KAIKO Dive 189, 192, 193) である。すべての個体について、光学顕微鏡及び肉眼で貝殻表面の観察を行った。潮岬海底谷の2個体については、SEMによる殻表面及び断面の観察も行った。

形態型1は、天竜海底谷の個体、形態型2は熊野沖大陸斜面、第一南室戸海丘及び潮岬海底谷の個体に認められた。両形態型は貝殻内表面の構造により区別することができる。形態型1の内表面は平滑であるが、形態型2の内表面は直径約 61-548 μm の穴状構造をもつ。さらに、形態型1は、左右殻の鉸板に殻頂下洞をもち、右殻の鉸歯に殻頂下主歯の前歯をもち、套線が湾入することからも、形態型2と区別することができる。

キーワード: オトヒメハマグリ科, ノチールシロウリガイ, 殻形態, 穴状構造

Keywords: Vesicomidae, *Calyptogena (Ectenagena) nautilei*, Shell morphology, Hole-like structure